



授業構想シート
授業構想チェックシート
Rシート

実施時期

令和 4年 11月～12月

学部

高等部

教科

国語

グループ

B

指導領域

書くこと

実態

実態について

- 個別の教育支援計画を確認 (その子どもに必要なこと?) 個別の指導計画で領域を確認
- 知識を段階化した一覧を実態表として使用し、実態を把握
- 「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要
 - (1) この題材で達成が可能? 【可能性】
 - (2) 現在の生活で必要は? 【必要性】
 - (3) 将来の豊かな生活につながる価値は? 【価値性】

対象生徒: J

知識及び技能

・写真やイラストを見た時、知っている物や人の名前について、単語で答えたり、平仮名や片仮名、簡単な漢字を使って書いたりする

思考力・判断力・表現力等

- ・写真やイラストを見て、「誰が(人)」「何を(物)」「どうした(動き)」の視点の視点を入れた文を書く
- ・「何色ですか」や「何人いますか」などの問いに応じて、「〇色」「〇人いる」と書く
- ・教師が「どうしてですか」と問うと、「わからない」と言うことがあるが、具体的に尋ねたり、選択肢を挙げたりすると答えを決めて「〇〇だから」と理由を書くことができる
- ・教師の「〇色の□」「〇個の□」などの例示を参考にして、同様の仕方です「〇色の△」「〇個の△」とイラストや写真の内容について書くことができる

学びに向かう力・人間性等

- ・友だちの答えを見て、よいと思う気持ちを「よいです」と言葉で伝える
- ・スモールステップで課題を設定すると、次々と課題に取り組む
- ・ゲーム的な要素を取り入れて課題を設定すると、時間いっぱい活動に参加する

学習指導要領の扱う段階の目標と内容

知・技(小学部3段階)

ア(エ)言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと

思・判・表(小学部3段階)B書くこと

ウ見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと

【どうなってほしいかを三つの柱で整理】

【何を学ぶ?(知識)】

・見たこと(写真やイラスト)を詳しく伝えるための視点(誰が、いつ、どこで、何を、どうした、色や数)

【〇と判断できる発言や姿】

・写真やイラストを見て、詳しく伝えるための視点を決めて文を書く

【大まかにどう段階化する?(詳細は題材計画で)】

写真やイラストを見て
①「誰が、何を、どうした」の文に、「どんな(数・色)」の視点を入れる
②「誰が、何を、どうした」の文に、「どこで」の視点を入れる
③「誰が、何を、どうした」の文に、「いつ」の視点を入れる

【どう学ぶ?(活動)】

・教師がしたことイラストや、自分がしたことの写真を見て、文を書く

【〇と判断できる発言や姿】

・イラストや写真の内容に応じて「いつ」「どこで」などの既習の視点と、新しく学習した視点を入れて文を書く

【大まかにどう段階化する?(詳細は題材計画で)】

○「誰が、何を、どうした」の文に、「いつ」「どこで」「どんな(色、数など)」の視点を1~2つ加えて書く
○「誰が、何を、どうした」の文に、「いつ」「どこで」「誰と」「どんな(色、数など)」の視点を2つ以上加えて書く

【望む姿勢や姿は?】

・教師の説明を聞いて、自分から課題に取り組む
・間違えた時には、教師と一緒に確認をしたり、自分でやり直しをしたりする

【どう引き出す?】

・見知った教師のイラストや、自分の写真を提示し、教材に興味をもてるようにする
・教材として提示する写真やイラストは、視点がなるべく簡単な言葉で表現できるものを使用する
・はじめは簡単な内容から取り組み、徐々に複雑な内容に課題を設定する
・課題終了ごとにシールを貼り、学びの積み重ねが実感できるようにする

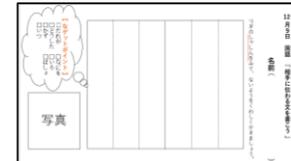
【教材は?】

【教材名: 「なるほど!ザ・紙芝居」】

【仕組み】イラストや写真について文を書いた後、書いた文について友だちと見聞きし合い、視点が増えるにつれて一人前の紙芝居屋に近づく

記入シート

視点を自分で選択して文を書くもの



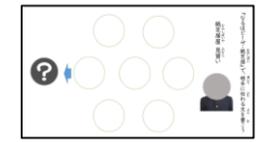
視点確認ボード

視点を整理・確認する時に使用する



修行達成シート

本時の課題達成時にシールを貼り、学習の到達状況を確認するもの



【全 8 時間をどう使う?(題材計画)】

知 技	【一次】1時間 文を書く際には、相手にわかりやすく伝えるために必要な視点があることを知る 教材の仕組みを知る	【二次】5時間 ・わかりやすく書くための1つ1つの視点について、その視点を入れて書くよさを確認する 「何を(物)」→「色」→「数」→「場所」→「いつ」の順で提示	【三次】2時間
	思 判 表	自分の写真を見て、本時に学習した視点と既習の視点を組み合わせて文を書く	・自分の写真を見て、どの視点を書くかを考え、使用する視点を決めて文を書く
主 体 姿	自分から課題に取り組む	・説明を聞いて、自分から課題に取り組む ・わからない時には自分で確かめたり、質問したりして課題に取り組む	・イラストや写真を見て、使用する視点を決め、決めた視点を入れて文を書く

【めあて達成のための工夫は?(場面設定・教具・働きかけなど)】

<p>【工夫点】</p> <p>〈教具〉 ①視点カード(なゲットポイント)と、それを操作するボード(なゲットボード)を使用した ・はじめはボードを使って教師と一緒に操作しながら確認した。徐々にプリントに視点を入れたものを移行して自分で使用する視点をチェックしながら文を書くようにし、活動に慣れるとプリントからも視点を外した ②発表の際には、書いた文に入っている視点を教師が言葉とともにホワイトボードに提示し、視点が入ったことでわかりやすく伝えられたことを認めるようにした</p>	<p>【意図(ポイント)】</p> <p>①視点を視覚化し、段階的に手がかりを減らせるようにするため ②友だちが書いた文に含まれる視点を可視化することで、視点を意識して聞いたり、わかりやすく書くための視点を確認したりするため</p>
---	--

【1時間をどう展開する?】

学習活動	意図と働きかけ(主発問・みとめ・タイミングなど)	【板書】
前時を振り返り、本時の課題とめあてを確認する	○本時で学習する内容がわかるように、活動内容を伝えたり、めあてを提示したりする	<p>文に含まれる視点を提示</p> <p>既習の視点を提示</p>
本時で学習する視点について、視点を書くよさを確認し、練習問題に取り組む	○本時で学習する視点を入れて文を書くよさがわかるように、本時で習得する視点の内容が異なる2枚のイラストを提示し、視点を入れてわかりやすく書く必要性を確認する ○視点を答えたり、視点を加えた文を書いたりした時は認め、より相手に伝わりやすい文になったことを知らせる	
「なるほど!ザ・紙芝居」で、わかりやすく書く	○習得した視点を自分で組み合わせて文を書くことができるように、様子を見守る ○複数の視点を入れて書くことのよさがわかるように、書いた文の中に複数の視点が含まれていることで、文の内容がわかりやすくなったことを知らせる	<p>【改善】視点を提示するボードについて</p> <p>①教師と一緒にボードで内容を確認してから文を書く ②自分でボード内の視点を操作して決める ③プリント内に視点を選ぶ欄を加え、自分でチェックをして文を書く ④プリント内のチェック欄をなくす ①→④の順で支援を減らした</p>
最終問題まとめ	○本時でできるようになったことを振り返ったり、次時の見通しをもったりすることができるように、本時の振り返りと、次時の取り組みについて知らせる	

【評価】

開始時の姿(実態・課題)	指導・支援	結果
・イラストを見て、「誰が」「何を」「どうした」の3つの視点を入れて文を書く	・「誰と」「いつ」「どこで」「どんな(色、数)」の視点については、視点ありの文となしの文を比べ、どちらがわかりやすいかをグループ全体で意見を出し合いながら確認し、その視点を加えるよさを感じられるようにした ・「誰と」「いつ」「どこで」「誰と」「どんな(色、数)」の視点を加えた文を書いた時には、教師と一緒に視点カードを用いてどの視点を使用したかを確認したり、認めの言葉をかけたりしてわかりやすい文になったことを伝えた	・自分の写真を見て、「誰が」「何を」「どうした」の文に「場所」「何個」など1~2つの視点を加えて、「〇〇さんが、△で□を〇個持っている」と文を書くことができるようになった

① 11/7 欠:1

【うまくいかなかったこと】
・提示したイラストを見て、「〇〇が△した」の文を書くことができた
・提示した活動の流れに沿って、活動することができた

【気づいたこと】
・イラストの内容に当てはまる言葉を考えるのに時間がかかっている

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・より生活の中にある言葉で書けるよう、普段使用している場所や物を使って教材を作る

② 11/10 欠:なし

【うまくいったこと】
・提示された【数】の「なゲットポイント」について、「〇が▽を△個□した」という文を書くことができた
・友だちの発表を聞いて、「なるほど!」と答えることができた

【気づいたこと】
・ボードの使い方が理解しきれていない

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・なゲットボードには、これから書く(書こうと思う)視点のみを貼ることを、活動前に再確認する
・出題数を調整する

③ 11/16 欠:1

【うまくいったこと】
・イラストを見てどのポイントが含まれているか、自分でボードの中を操作しながら考える姿が見られた

【気づいたこと】
・繰り返し同じことを言われていると感じているようなので、教具の使い方は、書く前に視点を整理すると、書いた後の確かめに使用する人など、理解の状況に応じて整理して対応する必要がある

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・ボードの使い方を確認する(生徒によって異なるので、教師で実態を把握・共通理解しておく)

④ 11/22 欠:なし

【うまくいったこと】
・自分からなゲットポイントを確認して文を書く姿が多く見られた
・3活の「なるほど~!」の声グループ全体で大きくなり、表情よく活動を楽しんでいた

【気づいたこと】
・活動に慣れ、課題の進みがより速くなっている
・声の大きさや周囲の音によって、皆が聞き取れる内容に差ができていた

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・出題数の再調整
・発表の際には、教師が文を繰り返して全体に伝えながら含まれた視点をホワイトボードに掲示して、認めるようにする

⑤ 11/28 欠:1

【うまくいったこと】
・なゲットボードの視点を自分で操作して文を構成することができている

【気づいたこと】
・活動前にこれまでと同様の簡易な活動の提示をしたが、見通しが十分にもてていなかった
・課題を多く設定するよりも、確かめに時間を使い、視点が入った文のよさを伝えることに時間を使う方がよい

【気づいたこと】
・まだ書いていない視点があるときには、「この視点は書けそうですか」と提案すると、問われた視点について書くことができていた

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・ボードなしに文に必要な視点がかめられるように、課題プリントに視点の欄を入れ、必要な視点を自分でチェックできるようにする
・振り返りで確認する内容について、教師で共通理解しておく
・本人の状況に合わせて事前に見通しがもてる活動の提示の仕方や、約束をする

⑥ 12/5 欠:なし

【うまくいったこと】
・課題プリントにある視点の欄に自分でチェックしながら、文を書くことができた

【気づいたこと】
・「いつ」の視点について、具体的な日にちや時間を記入しなければならないと思っている

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・「いつ」の視点については、「〇〇の時間に」や「〇〇の時」などの大まかな時間の書き方でよいことを確認する

⑦ 12/7 欠:1

【うまくいったこと】
・自分で文に入れる視点を選んで次々に文を書くことができていた

【気づいたこと】
・2活に時間がかかり、3活の時間設定が短くなった

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・2活では知・技の確認、3活で習得した学習内容の確認ができるよう、課題の量と内容を調整する

⑧ 12/9 欠:なし

【うまくいったこと】
・自分で写真の内容に沿った視点を選んで文を書き、どの視点を用いて書いたか、ボードを使って説明することができた

【気づいたこと】
・ストーリー性のある課題の方が、より興味をもって取り組むように感じた

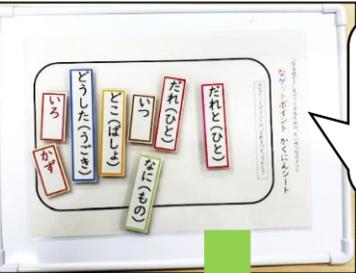
主・対で深い学びの実現に向けた改善
・今回学習した相手にわかりやすく伝えるための視点(なゲットポイント)がよく意識できていたので、次題材や生活の中でも言葉かけをしていく

主・対で深い学びの実現に向けた改善
・今回学習した相手にわかりやすく伝えるための視点(なゲットポイント)がよく意識できていたので、次題材や生活の中でも言葉かけをしていく

実践のポイント

知・技の確実な習得のための教具と高まりに応じた変化

わかりやすく伝えて「なるほど!」をゲットするためのポイント = なゲットポイント



どの視点を入れるか、どこに入れるかを自分で操作しながら考えられるように、可動式にした。



自分で操作できるから、視点の確認がしやすい!



ボードを使って確認することが定着したため、プリントの中に項目を加えて、自分でチェックする形にした。

興味・関心や意欲を高め理解がしやすい課題設定の工夫



意欲をもって取り組み、視点について理解がしやすいように、生徒が興味・関心をもちやすく、視点の内容とのつながりがわかりやすい写真やイラストを扱った。



視点がわかりやすいから、これなら書けるかも!

働きかけについて (HOW TO)

- 自ら考え、判断して行動する手助けをするためのもの
- 活動「開始時」「途中」「つまずき」「終了時」を想定
- 誘い、示範例示、助言、説明、問いかけ、盛り上げ、賞賛、励まし、認め、意味づけなどを行う
- 子どもに合わせた伝わりやすいことばや提示
- 抑揚や身振り、表情、子どもの好きなものなど工夫
- つまずきに対して答えてなく段階的な働きかけ
- 課題遂行につながる効果的なことばかけ
- 何がよかったかわかるよう即時評価
- よさや価値を伝えられる認め
- 働きかけを段階的に減らしていく工夫

- ### 題材目標について
- それぞれの子どもの目標を個別化する
 - 授業の評価・改善ができるよう、題材の最後の姿(到達像)の具体化する
 - 身につけたいことを焦点化する
 - 前単元や題材、または、日常生活で意欲的に取り組めた工夫を活用
 - 例:教材の仕組み、学習環境の工夫など
- ### 教材について
- 子どもに身につけてほしい知識及び技能、生活に生かせるような思考力・判断力・表現力をその教材で習得・育成できる?
 - 必要性を感じ、課題をもてる?
 - 主体的・対話的な活動は取り入れられる?
 - 絵、写真、ビデオなど具体物を使用するなどの工夫ができる?
 - 子どもが自分でルールを決めたり、役割を設定したりできる?
 - 子どもにとっての強化子はある?
- ### 題材計画について
- つまずきの原因分析から、できること・わかることが段階化されている?
 - 子どもへの学び取りの傾向から課題の引き受けや実施方法が検討・工夫されている?
 - 全体の計画と個別の計画がわかるようになっている?
- #### 【一次】
- 仕組みを理解したり、楽しさを感じたりできる?
 - 活動の意味やよさが十分理解できる?
- #### 【二次】
- 二次は確実な知識の習得
 - 子どもに到達してほしい頭の使い方がぶれていない?
 - 負荷がかかりすぎていない?
 - 支援が減る、問題の難易度が高まるなどしている?
 - 友だちと一緒に学ぶ場が計画されている?
 - 自分で考えた仕方や解決方法を生かせる仕組み?
- #### 【三次】
- できるようになったことを生かす場は設定されている?
- ### 学習環境について
- 活動の流れや量、しやすさを考えた道具材料の配置?
 - 不要な刺激は排除している?
 - 仕方や手順がわかりやすく伝えられる?
 - 成果が見てわかる?
 - 自分で仕方や手順を確かめられる?
 - 教具は、思考(わかる)を補助できる?
 - 教具は一人で使えるようになる?
 - 期待感(してみたい!)をもてる?
- ### 学習活動について
- 導入は課題理解、興味関心
 - 展開は知識習得のため、教具の理解や操作が適切?
 - 発展は定着、応用、工夫できる?
 - 終末は自己評価と次時への意欲
 - 目的や意味、よさがわかる?
 - 何をどのくらいどのようにするかわかる?
 - 課題は段階的に高まっている?
 - 間違いに気づいてやり直せる仕組み?
 - 学習の結果と目的がつながって達成感がもてる?
- ### 評価について
- めあてと指導はつながってる?
 - 文章・文法はわかりやすい?伝わる?
 - 不適切な表現はない?(難しい、できないなど)